



扉 第70号

2020. 3. 1 発行

愛知県立

常滑高等学校

図書委員会

対行所：田中厚江

教務主任

甲斐 昌夫 先生

『やれど我が日々』

(柴田翔著 文春文庫)

高校時代、ほとんど本なんか読んでなかったの、浪人生の頃、自宅と名古屋の往復の間にとりあえず月に1冊は本を読むとう心に決め、実際たたくさんの本を読みました。

この一冊は、好きだったミュージシャンを紹介していたもので、あつという間に読み切ってしまったことを覚えています。内容は、一九五〇年代の学生運動に関わっていや人物が主人公として描かれています。

どんな本にせよ、一度どっぴりと読書にはまってみてはどうでしょうか。

進路指導主事

今井 秀明 先生

『決断と実行』

(落合博満著 ダイヤモンド社)

卒業後、皆さんは様々な分野に進むことになりました。どの分野に進んでも共通して言えることは、その世界で一流と言われた方々の物の考え方を学び、自身を向上させようと日々努力することが大切だと思います。

この本は、「強い意志を持つことの大

卒業生に贈る

この一冊

私と読書

『アメリカを葬った男』

校長 相川 浩 先生

第二十五代アメリカ合衆国大統領ジョン・F・ケネディは、一九六三年十一月テキサス州ダラスで暗殺されました。世界中に衝撃を与えたケネディ暗殺事件は、陰謀説とともに謎に包まれた歴史的大事件として今も語り継がれています。

この『アメリカを葬った男』は、シカゴのマフィアのボスで、ケネディ大統領の実弟ロバート・ケネディ司法長官、女優マリリン・モンローの死にも関与したと言われた、サム・ジアンカーナの弟

チャックによる伝記と証言を落合信彦が訳した作品です。

ケネディ暗殺の解明を断言していきませんが、そのまま真実とは受け取らずに、小説の一つとして、サムがスラムから頭角を現し、闇の帝王まで駆け上がる、近代の最先端と思われるアメリカの政治を裏から覗いた黒歴史を読むことができます。たまたま自分が楽しんだ本ですが、どんな作品でも夢中で読むことができる本をいつも身近に置いて、心を落ち着ける環境を作れると良いと思います。

(サム&チャック・ジアンカーナ著

落合信彦訳 光文社)



三年 学年主任

井浦 淑行 先生

『勝言』

(アスリート勝言研究会著 笠倉出版社)

・「紙一重の薄さも重ねれば本の厚さになる」 君原健二 (元マラソンランナー)
・「俺がやったドーピングは努力だけだ」 ディエゴ・マラドーナ (元サッカー選手)
・「200階まで行きたい。エレベーターもエスカレーターもダメとなったらもう階段しかないでしょう」 桑田真澄 (元プロ野球選手)

数々のアスリートたちの言葉が、その時代背景と共に紹介されています。何か壁にぶつかったとき、次へ一歩を踏み出そうとするとき、勇気をもらいたときなどにお薦めです。

切さ」を感じることができると思っています。読書は、物の見方・考え方を幅広くできるもので、自分を見つめ直す良い機会になると思います。機会を見つけて読書をして、自分自身を成長させてください。

三年一組 担任

太田 有亮 先生

『才能の正体』

(坪田信貴著 幻冬舎)

「自分には才能がないのではないか？」
誰でも一度は考えたことがある悩みだと思います。

この本は、あのビリギャルの著者である坪田先生が「才能とはいったい何なのか」、自身の考えを心理学の観点からまとめたものです。「頑張ったのに結果がでない」、「これからの人生が不安だ」と思っている人におすすめです。

最後に、この本で一番気に入っているフレーズを紹介します。「才能も人生も気分が9割」。

三年二組 担任

竹内 清博 先生

『地図で楽しむすごい愛知』

(都道府県研究会編 洋泉社)

第一章地形で見る愛知県「東高西低の

地形の謎に迫る」の中に、師崎層群の地層から深海生物の化石が数多く見つかり世界的に注目されて日本地質学会が近年「愛知県の石(化石部門)」に選定したとの記述がある。NHKの「プラタモリ」が日本地理学会から推薦を受け書籍化もされている。

若い君たちは、これから日本と世界の各地で活躍すると思う。その時々で地元のアノ知や知多半島、そしてあなた自身を再発見するだろう。

三年三組 担任

川合 孝弥 先生

『ぼくはイエローで』

ホワイトで、ちよつとブルー』

(ブレイディみかこ著新潮社)

イギリス南部の都市ブライトンで生まれ育った中学一年生のぼく。パンクな母ちゃんとダンブの運転手の父ちゃんの中に生まれた一人息子で「いい歳をして反抗的でいい加減な」母親とは違い、学校ランク第一位の公立小学校で生徒会長をしていたような「いい子」。しかし、ぼくはちよつと変わった「元・底辺中学校」に進学することにした。図書室の先生に勧めてもらい、まだ読み途中ですが、人種差別、ジェンダー、貧富の差、アイデンティティについて考えさせられます。

三年四組 担任

服部 悠子 先生

『学生時代にやらなくてもいい』

20のこと』

(朝井リョウ著 文藝春秋社)

基本、小説しか読まない私が、珍しく手に取ったエッセイ。実は二学期の途中くらいから自分のクラスの学級文庫に忍ばせておいた本で、いつの間にか帯が破られていた本でもある(多くの人の手に渡るなら致し方ない)。

内容は作者の大学時代の話なのだが、これが実に軽妙な語り口で書かれていて、うっかり電車で読もうもんなら「あの一人で笑ってる…」と不審な目で見られること間違いなしである。でも、読みながら「うんうん、大学生ってこんなもん」と思ってしまうのはなぜだろう。

三年五組 担任

高木 俊博 先生

『まんがでわかる「7つの習慣」』

(宝島社)

世界の名著「7つの習慣」のマンガ版です。ビジネス書ではあるのですが、これから夢に向かって頑張る皆さんにはとても参考になるのではないかと思います。世界の名著や歴史をマンガにしたものは絵が中心なので、物語がイメージしやす

く読みやすいと感じます。この本も、7つの習慣のポイントをおさえながら、夢に向かって突き進む主人公の様子を描くことでイメージしやすいものとなっています。マンガ版侮れないですよ！

三年六組担任

大江 隆介 先生

『能力を磨く』

(田坂広志著 日本実業出版社)

これから先の社会変化に対応していくためにはどのような能力を身に付けなければならないのか。この本を読むまでは分からなかったことですが、今なら分かります。「AI」、「コミュニケーション能力」と言った言葉を使いながら、どのような視点で教育を受け、また人と関わっていくべきかを教えてくれる本です。自分が望む生活を送るためにも、これから先の社会の事を考え、自分の能力を磨くようにしてほしいですね。

三年七組 担任

野村 卓也 先生

『蜜蜂と遠雷』

(恩田 陸著 講談社)

ピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、そして音楽を描き切った青春

群像小説です。卒業生に贈る本を紹介する場ではありますが、先生は本の選び方を伝えたいと思います。それは「本屋大賞」の本です。「蜜蜂」と「速雷」もそうです。先生は毎年、本屋大賞の本を必ず読みます。内容は様々ありますが、ハズレはありません。好きな著者やジャンルがある人は基本的に読書が好きな人です。何を読んだらいいか迷う人は「本屋大賞」がおすすりめです。通学や通勤で時間がある時はスマホではなく本を読んでみればいかがでしょうか。

三年八組 担任

坂野 晃平 先生

『転換期を生きるきみたちへ』

(内田 樹 編)

この本には、今まで君たちが学校で教わったことと全然違うことが、十一人の著者の視点で書かれています。

世の中には多様な考え方があって、その多様性・意外性こそが世の中を豊かで潤いのあるものにし、新しい価値を作り出していく。是非そのことをこれからの未来を担う君たちに知ってもらいたい。大人になってからではない、十八歳の今読んでもらいたい1冊としてこの本を推薦します。

三年一組 副担任

浅井 洋一郎 先生

『事実とは何か』

(本多勝著 朝日文庫)

日本人、アメリカ人、中国人、韓国人など、私たちは国で人々のイメージを持つてしまいがちですが、これは正しいことでしょうか。たとえば日本政府の見解が個人の見解だと思われてしまつては困る場合もあります。広い世界に出たら「事実」をよく見て自分自身の考えを正しく持つ必要があります。この本はその一助となる本です。ぜひ読んでみてください。

三年二組 副担任

榊原 麻起子 先生

『平和をつくった世界の20人』

(ケン・ベラー他著)

岩波ジュニア新書

この本は「非暴力を選ぶ」「平和を生きる」「多様性を大切にする」「あらゆる命を重んじる」「地球環境を大切にする」の五つの柱で、様々な方法で平和に貢献した人物、例えばガンディー、キング牧師、マザーテレサなどを紹介しています。平和を築くために貢献した彼らのエネルギーとパワーにとっても感動します。これからの世界を築いていく皆さんの人生の

ヒントになることがたくさん書かれています。英語版もあります。ぜひ、読んでみてください。

三年三組 副担任

青木 邦夫 先生

『ジャガイモの世界史』

(伊藤章治著 中公新書)

コロンブス以来ヨーロッパ人が広めるまで、南米のアンデスの人々しか知らなかったジャガイモ。ジャガイモの世界史はただか500年。しかしどんな瘦せた寒冷地でも育つ。栽培の簡単さでジャガイモは世界に広まった。人間の飢饉を幾たびか救い「貧者のパン」ともいわれるジャガイモだが、その美味しさからすると、「貧者」の表現は不適當ではないか？筆者は世界各地を訪れ、品種改良され、その土地にまさに根付いたジャガイモの歴史を紹介する。あのジャガイモが世界史を動かした！筆者のジャガイモ愛が伝わつてきて、読むうち、フライドポテト、じゃがバター、肉じゃがが…。「ジャガイモ食いでー！」と思える好著だ。

三年四組 副担任

岡田 雅行 先生

『サピエンス全史』

(ユヴァル・ノア・ハラリ著 河出書房新社)

「銃・病原菌・鉄」の次に面白い。つまり、世界で二番目に面白い。

三年五組 副担任

野畑 実芳先生

『発見！ユダヤ人墳輪の謎を解く』

(田中英彦著 勉誠出版新書)

表紙の墳輪の写真が興味を引き、手に取った本です。内容は関東地方の古墳から出土した山高帽に顎髭ともみあげのある、日本人とは明らかに違う異形の墳輪がユダヤ人ではないか、というものです。著者は西洋美術史の専門で、西洋史の研究の観点から日本史を分析し、さらにDNAの調査結果から高い確率でユダヤ人ではないか、という説を述べています。厩戸皇子の誕生説話と「日出処の天子、書を没する処の天子に致す…」で有名な隋の煬帝にあてた書が示すキリスト教との関わりと東方を目指す思想などから謎を解き明かす手法、また古代においてこのようなユダヤ人独特の風貌をしてい



たのかどうかは疑問もありますが、未知の部分の多い古代史で、想像力を駆使し、いろいろな説が考えられることが面白いと思います。

三年六組 副担任

渡辺 浩司 先生

『ライオンのおやつ』

(小川 糸著 ポプラ社)

私の中ではこの本は大袈裟に言うところ「死ぬまでに必ず読んでおいて欲しい一冊」に入る本です。ただし、前置きもなくこの本を読んでもその世界観に入れない恐れがありますので、2部作である「ツバキ文具店」「キラキラ共和国」を読んでどっぷりと著者の世界観に染まってから読むことをお勧めします。

言葉では表現できないくらいに衝撃を受ける本です。

三年七組 副担任

澤田 清 先生

『いれからうする』

未来のつくり方

(岩波書店編集部編 岩波書店)

政治・経済・国際関係・社会・教育などをテーマに、有名教授が将来の日本の在り方について語り綴った本です。なかなか難しい本で、昨年から読み続けてい

るものです。

読んでみると、今の日本の現状と将来へのあり方が見えてくるような本です。ただなんとなく生活しているあなた！是非手にとつて読んでみてください。自分の未来像が見えてくるかもしれません。

三年八組 副担任

海野 昶裕 先生

『裸でも生きる』

(山口絵理子著 講談社)

ノンフィクションでリアルな話に非常に感動しました。身近で起きそうな話にも親近感を覚えました。

人生は一度きり自分の進むべき道を切り開いていく姿は君たちの今後の人生において勇気を与える一冊となるでしょう。私が現在実行している生き方にも共通する点が多く是非皆さんに読んで頂きたいと思ひ推薦致します。

将来は将に来る。未来は未だ来ない。謙虚さを大切に。

謙虚さを大切に。



数学科

井上 富雅 先生

『大学生のための役に立つ数学』

(鈴木核子ほか著 共立出版社)

数学と聞いただけで思考停止してしまう人を見かけます。ところが、人が生きていくうえでいろいろな場面に遭遇し考えさせられるとき、数学の理論を参考にすることが多くあります。大学生でない人ももちろん役立ちます。ぜひ読んでみてください。

ちなみに、著者の桜子さんは本校の卒業生です。

セラミックアーツ科

永吉 広行 先生

『Toban俺たちのキックオフ』

(堂場舜一著 実業之日本社文庫)

昨年は、ラグビーで盛り上がりました。今年はおリンピックで盛り上がりが期待されます。この本は、ラグビーのルールを知らないという人でも十分臨場感を味わえる本です。ラグビーを通して今までの枠を通り越した考える力がどれほど大切かを教えてくれる一冊です。自分の生き方を考え直すきっかけになるかもしれませんよ。

是非、読んでみてください。

三年生のみなさん、卒業おめでとうございませう。高校三年間で、どんな本との出会いがありましたか？

入学後から、朝の読書活動、英語多読授業、他にも沖繩修学旅行の調べ学習、課題研究や自習時間を通して、三年間で、たくさん本の出会いがあったと思います。また、受験勉強のために、毎日最終下校時刻まで図書館学習を、頑張り続けた姿が印象的でした。そして、十二回生図書委員長始め、図書委員の皆さんのおかげで、毎日の開館、学級文庫の管理、図書館便りの発行などの活動や、図書館の文化祭や図書館の集いなどのイベントを楽しむことができました。ありがとうございました。

今回の図書館だよりは、常滑高校を卒業後、新たな一歩を踏み出す皆さんに、ぜひ読んでもらいたい本を三年生の学年団の先生から紹介していただきました。読書は知識や語彙力を得るだけでなく、自分になりたい人になるために必要な作業で、想像力を高め、他者を理解するのに役に立つと考えています。そんな思いを入れた、卒業する皆さんに贈る最後のおすすり本リストです。卒業後、このリストが皆さんの役に立つことを願っています。

(図書館司書 丹羽かよ)